

地震に備えて

(家庭・研究室内で)

1. 事前の準備

(1) 家族(研究室)での役割分担の確認

- ・災害に備えて、火気・実験装置等の点検
- ・避難方法、避難場所
- ・家族(研究室)間の連絡方法等



(2) 非常持出品を準備

- ・家族構成を考えて、最低限必要な物を準備し、いつでも持出が出来るよう、リュックサックなど背中に背負えるものに入れておくこと。

○家庭での持出品の例

水・非常食(3日程度)、懐中電灯、ロウソク、ライター、ラジオ、衣類、軍手、マスク、印鑑、現金、保険証、(幼児がいる場合は、ミルク、紙おむつ等)

(3) 家具の転倒防止対策、危険箇所の確認

2. グラッと来たら

(1) まず身の安全

(2) 火元を消す、実験装置等の停止。

(3) 戸を開けて脱出口の確保

(4) 火災を見つけたら、直ぐに消火活動

(5) あわてて外に飛び出さない

(6) 周りで協力してけが人、病人の救護にあたる

(7) ラジオ等で正確な情報を確認

(8) 電気、ガス元の停止

(9) 慌てず、落下物や破片に気をつけて避難場所へ(出来るだけ集団で)

(10) 海岸付近にいる場合は、直ぐに高台へ避難。



3. 余震が落ち着いたら

(1) 周りで逃げ遅れた人がいないかを協力して確認

(2) 学生は、大学からの帰宅指示後に帰宅。教職員は応急対応にあたる。

※帰宅の際は、ラジオ等で正確な情報を確認し、出来るだけ徒歩で帰宅する。

(3) 東北大学HPで、大学の動向を確認し、必要に応じて、安否報告をする。

災害に強い東北大学へ